

第9回（令和2年度第2回）南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

令和2年8月7日(金)

午後2時00分～午後5時00分

南魚沼市役所 本庁舎 大会議室

参加者

【推進会議委員】(50音順)

大谷 一人委員、熊倉 浩靖委員長、関 聡副委員長、佐藤 浩幸委員、羽吹 忍委員、樋口 昌敏委員、藤田 豊委員、マクレラン 牧子委員、矢口 愛委員 以上9名
(欠席：岩佐 十良委員、須藤 彰芳委員、中島 博委員)

【南魚沼市】

林市長、平賀市民生活部長、米山福祉保健部長、高野産業振興部長、大塚建設部長、片桐教育部長、佐藤下水道部長、岡村消防長、立川U&Iときめき課長、腰越商工観光課長事務局(企画政策課)：高橋企画政策課長、須藤行革主幹、大行企画主幹、田中主任、渡邊主事

1. 開会（進行:企画政策課長）

2. 市長挨拶

本日はお忙しいところ、南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議に出席いただきまして誠にありがとうございます。また、複雑で多岐にわたる本会議の委員に、熊倉委員長はじめ、皆様から引き続きお引き受けいただきましたことに感謝申し上げます。

早いもので、市長としての任期4年の最終盤を迎えています。市の課題というのは尽きることはありません。これほどまでに課題が連続して出てくるものなのかと、自分としては呆然とすることがなかったわけではありませんが、委員の皆様の見識をはじめ、市民の皆様、南魚沼に関係していただいている皆様から多くの力をいただき、なんとか前に進めたいという強い思いを持って取り組んでまいりました。

様々な課題がある中で、特に人口減少や少子高齢化については全国区の問題であり、これを急展開で変えていくことはできません。南魚沼市の合計特殊出生率は1.43という状況で、平成29年度から現在に至るまで出生数が年間400人を下回っており、昨年度は300人台前半まで落ち込んでいます。65歳以上の高齢者割合は、私が就任してから30%を突破し現在は33%となり、この流れはなかなか止めにくいところがあります。また、今年度は新型コロナウイルスの影響で成人式を令和3年まで延期させていただきましたが、今回の対象者は650人近くいたところ、今は出生数300人台前半であり、わずか20年でこれほど減少するものなのかと感じています。

このような状況にあります。行政は生まれてくる方から亡くなる方までの幅広い分野があり、挑戦的なことも取り組んでおります。平成29年度からふるさと納税に本格的に取り組み始め、昨年の実績は17億円を超え、県内でトップレベルに入ることができました。今年は更に好調で、テレワークやステイホームが影響しているのではないかと思います。昨年より12%増で推移しており、本日までに約5億円近い寄附をいただきました。しかし、一方で業務用米の不況という状

況があり、いろいろな思いを感じているところです。

新型コロナウイルスの影響で、会社や企業の皆さんが南魚沼市で働きリスクを分散する、または働き方改革の中で福利厚生的な意味合いとして週末に近い日などを南魚沼市で過ごしていただくなど、これから様々なことがあると思います。地方創生を目指す中で、南魚沼市には関東からのアクセスの良さや近接性、また近距離でありながらも自然が豊かであること、雪環境で培ってきた文化があり、我々はこれらを謳って取り組んできたわけですが、今回のコロナ禍により地方創生の新たな段階へと進める可能性が出てきたと考えており、前向きに取り組んでまいりたいと考えています

今年残念だったこととして、東京 2020 オリンピック・パラリンピックが延期され、雪を東京へ運べなくなってしまったことがありました。雪によって「雪国南魚沼ここにあり」と世界中に PR し、雪室の倉庫化・産業化の取組の加速を考えていましたが、このことは来年に持ち越します。

実は一昨日、東京都江戸川区との友好都市盟約を結びましたが、締結式はオンラインシステムを利用して開催しました。この盟約は、地方創生の流れの中で、区民・市民同士の交流や災害時の応援体制など、関係を密にして困難を乗り越えていく礎となるものです。今後江戸川区さんとの様々な結びつきが深まることを期待しているところです。

近年災害が多く続いており、さまざまな対策を行っていますが、なかなか思うようには進まない問題が出てきたりというような状況もあります。ですが、行政が市民と寄り添い、敢然と立ち向かってまいりたいと思います。

本日は、地方創生推進交付金事業についての検証と、第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略を組み込んだ第 2 次総合計画の後期総合計画案について皆様からご確認をいただき、それぞれの立場から忌憚のないご意見を頂戴して、今後の取組に活かしていきたいと考えています。

熊倉委員長をはじめ、委員の皆様には本当にお世話になります、よろしくお願い申し上げます。

資料及び出席委員の確認

(企画政策課長)

- ・席順表と出席者名簿を記載した会議次第を当日配布し、配布された資料及び資料概要を説明
- ・出席、欠席委員の報告
- ・委員長、副委員長選任の報告

3. 議事 (議長:熊倉委員長)

議題(1) 令和元年度地方創生推進交付金事業の効果検証について

(熊倉委員長)

事務局及び担当課の説明を聞いたうえで、委員から意見を伺い、市が行った事業に対する評価をこの会議としてまとめたいと思います。事務局より説明をお願いします。

(企画政策課企画主幹)

資料7及び資料 8-1 により事業の位置づけ、評価シートの見方を説明

資料 8-1:「住まう喜びを感じるまち 南魚沼」実現プロジェクト

(U&Iときめき課長、商工観光課長)

事業の実績と内部で行った評価結果について説明

(熊倉委員長)

委員の皆さんからの意見を聞く前に1つ確認させてください。資料8-1のP3【2】まち・ひと・しごと総合戦略における位置づけにある令和元年度目標値について、(その1)では毎年の人数となっていますが、(その2)も毎年の件数ということでしょうか。

(U&Iときめき課長)

(その2)も毎年の件数です。

(熊倉委員長)

わかりました。これから、「住まう喜びを感じるまち 南魚沼」実現プロジェクトに対するご意見・ご質問をお一人ずつお受けします。

藤田委員、お願いします。

(藤田委員)

KPIの数値をみると達成項目が多く、そのことが評価されている。説明いただいたとおりで問題ないと判断します。

(熊倉委員長)

実際の現場の事業者の方として、羽吹委員はいかがでしょうか。

(羽吹委員)

(その1)は、現状として毎年目標を達成していませんが、その要因は果たしてここに記載してあるものだけなのか若干の不安があります。具体的に示せず申し訳ないですが、他にも何かの要因があるのではないかと考えています。

(その2)は、毎年目標に達していますが、平成29年度、平成30年度、令和元年度とそれぞれを見ますと増減があるので、要因が気になります。

(熊倉委員長)

矢口委員、いかがでしょうか。

(矢口委員)

新型コロナウイルスの影響もあり、これから((その2)のKPIの)人数が大幅に増えるという希望はあまりないと思います。南魚沼市に住民を増やしていきたいのであれば、周りから広めて増やしていくことが良いと思います。一つの事柄を派生させても全然広まらない。うまくコメントはできませんが、周りの住民の助けを借りる施策がいいのかなと思います。

(熊倉委員長)

マクレラン委員、いかがでしょうか。

(マクレラン委員)

2月末に東京で行われた移住者向けのセミナーに、女性数人で着物を着て参加しました。そのときの懇親会で話した方の多くは、「ウインタースポーツ」や「雪」ではなく、「都会から出たい」という理由で移住を検討されていました。

これだけの資料作成は大変だったと思いますが、一見ただけではわかりにくいです。

(その2)のKPIの人数が良いか悪いかはわかりませんが、最終的にお試し居住をした人でどのくらいの人たちが実際に移住してくれるのか、一人でお試し居住をしてくれた方もしくは興味をもってコンタクトを取ってくれた方がどのくらい定着してくれたのか、その実績によって今後の方向性が変わってくると思います。

また、地元にいる私たちが、そのような人たちをどのように受け入れるのか、接していくのが課題だと思います。実際に住んでいる者の感覚として、国からの予算や役所の事情などは別に、人と人とのつながりを考えたときに、住んでいる私たちは移住してくる人たちに対する考えを新たにしなければならないのではないかと思います。

コロナ疎開で塩沢地域に市外から来られた方が多くおられます。そのことを浦佐の人たちに話を聞くと「迷惑だ」とおっしゃる人たちが多くいます。なので、わたしたちが安心して市外から来られた人たちと接することができるように、大げさに言えば、「コロナ疎開してきた人たち、大歓迎です。ですが、ちゃんとPCR検査を受けて陰性ですよ。」ということが地元の人たちに周知できれば市外から来られた人たちと接していただけると思います。

色々資料や数字がありますが、もっと根本的なことから、今住んでいる人たちが接し方を考えていかなければならないと思ったのが正直なところです。

(熊倉委員長)

マクレラン委員のおっしゃったことは、羽吹委員や矢口委員と同じような感覚だと思います。

国への報告としてはKPIの数値は問題ないけれど、当初計画した考え方ではない。なので、もっと都会の人々や若者たちの意識、地域の意識を、コロナ禍でもう一度組み立て直すことで、確実な(移住促進の)流れになってくる。そのためには住んでいる私たちの意識改革も必要。それと同時に東京に対するPRも考え直した方がいい。中身について検討することはありますが、今回の数値は国に対するPRとして使いましょう、ということだと思いますがどうでしょうか。

大谷委員、いかがでしょうか。

(大谷委員)

皆さんがおっしゃったとおりだと思います。KPIの数値など、根本的なところを議論するためにこの会議はいい機会だと思います。また、数値を見るに南魚沼市に興味を持った方がいてありがたいと思います。

住んで働いている私の実感から言うと、CCRCによって4年間で変わった実感は得られていないのが現実なところです。我々がこういう構想に思い描く移住者が増えている実感はありません。ですが、構想に思い描いた移住者よりも、若年の単身者が移住しているということは、どちらかというと若者の嗜好が変わったことを受けての動きなのではないかと思います。熊倉委員長がおっしゃるように、その動きを汲み取って軌道修正するように勇気を出すべきというのもわかります。私の実感ですが、最近、外国人労働者が増えたということがありまして、これからのかもしれませんが若年層の誘導はあまり感じられませんでした。

(熊倉委員長)

樋口委員、教育分野からいかがでしょうか。

(樋口委員)

北里学院ではコロナ関係で遠隔授業をやっています。南魚沼市は、感染拡大地域ではありませんし、感染者もいませんので、対面授業も実施できています。一方で、東京の大学等はほぼ遠隔授業、オンライン授業です。前期はほぼオンラインで、後期も既にオンラインを決めている大学等もあります。

北里学院では学生募集で新潟県内の高校を回っていますが、コロナ禍が長く続くようだと、東京の大学にはいけないというお子さんがいるとのお話も聞いています。全体的な流れかはわかりませんが、今後変わってくる可能性があるかもしれないと思います。

2点気づいたところがあります。まず、1点目ですが、(その2)のKPIについてです。移住希望者の相談件数を毎年50件以上としています。軽々とクリアしているので、その設定について議論があるところかとも思いますが、実績値が平成27年度から90件、155件、258件、306件と年々右肩上がりだったものが令和元年度は234件と下がっている。その要因は何かということが一つ。

2点目ですが、先ほど、移住者の数で、新潟県内では1901人、そのうち南魚沼市が179人で10%程度という話がありました。新潟県と南魚沼市の人口比率は3%くらいなので、人口比率に対して移住者が多い要因は何なのか。また、若者が多いといった説明もありましたが、要因など分析できると強化する施策が考えられるのではないかと思います。

(熊倉委員長)

いまほどの2点について意見や分析結果があれば教えてください。

(U&Iときめき課長)

1点目の移住希望者の相談件数が伸び悩んだ要因について、説明します。正直に申し上げますと、コロナ禍前の雪のシーズンのときに(異常少雪により)現地へ来ることができなかったことがあります。雪のシーズンに現地交流会を行い、そこでの不明点について毎年相談があるのですが、その相談件数が伸びなかったことが要因だと分析しています。

2点目ですが、昨年、一昨年から「雪に興味がある」「雪国でワーケーションという形で働く」「田舎がいいので」という方をターゲットに活動を続けてきました。それぞれ移住された方に話を聞くと、35歳ぐらいまでに自分の生き方を実現したいとの考えがありました。そのことから、年齢層が下がってきているのではないかと感じています。

(熊倉委員長)

これは共有の課題ですので、担当課がどうこうではなく、みんなで考えていきましょう。

5年前の計画策定時での国の枠組みとしての取組ではなく、実際に5年経過した中で、地域でどのような実感を持ち、人々がどのように動き、わたしたちは新型コロナウイルスを含めてどのように対応していったら持続的にこの地域で暮らし続け、新たに加わる人が増えるかをざっくりと話しながら進めていければと思います。

県全体での南魚沼市の位置付けについて感触があれば、佐藤委員どうでしょうか。

(佐藤委員)

この地域に着任したばかりで、県全体における位置づけに具体的な見解を申し上げるのは難しいので、今回、皆さんの意見を参考とさせていただきます。

(熊倉委員長)

関副委員長はいかがですか。

(関副委員長)

(その1)にある帰省バスに私も乗らせてもらい、バスガイドのようになって地域の企業を若者にPRしてきました。市長からのあいさつもあって若者からの評判も良かったと聞いています。帰省バスの企画に携わっているのですが、アンケートの結果は非常に良かったです。南魚沼市から7割の人が首都圏へ出ていきますが、15年後に戻ってくるのは5～10%程度という状況です。しかし、アンケートの結果から、8割近い学生が「将来は地元に戻ってきたい」という思いを持ちながら首都圏へ行っていることがわかりました。ですが、戻ってこない。このギャップは何か、アンケートを見てみると「年収が低い」「やりがい首都圏の方がある」という意見がありました。この結果を解きほぐしギャップを埋めることができれば、決して帰ってきたくないというわけではないので、南魚沼市へ呼び戻す検討ができる。この帰省バスは非常に良かったと思います。

また、帰省バス1回目の8月9日の参加者が13人と少なかったのは、始めたばかりだったのでPR不足が要因だと思います。次の(12月の)74人は、当初1台40人のバスを予定していたのですが、申し込みが多かったため急遽1台バスを増やして2台とも満車になりました。これはコロナ禍がなければ倍々に増えていくと思います。湯沢町や魚沼市、できれば十日町市まで合わせると何百人単位で池袋から無料で若者を連れてくることができます。ここに協賛を集めて企業のPRができるようになれば、非常にいいものになるのではないかと今後期待しています。Uターンの実数に直接つながっていくので、非常に期待できる事業です。なので、新型コロナウイルスが落ち着いたら力を入れていただきたいと思います。

もう1点ですが、商工会の会員数について、KPI目標値が現状維持となっています。人口については減少幅を小さくしよう、なだらかな減少としようという中で、現状維持とはしていません。商工会の理事をやらせていただいています。正直なところ、高度成長期にとっても多くの方が起業され、今、会員の平均年齢が高くなっているなかで、現状維持は厳しい状況です。なので、減少幅を極力減らすというようにしないと、かなり苦しいと思います。逆に、商工会に所属していると思うのは、新規事業を立ち上げる若者が増えているので、起業への支援をしていただきたい。また、今まで培ってきた技術や味や店舗があって、そこにお客さんもついているところであっても、これから10年くらいでかなりの数がなくなっていくと思います。それは倒産ではなくて、承継する人がいないからです。なので、商工会員が減っていきます。これに対して、例えば「社長になれるまち、南魚沼」というように幹部候補になれることをPRするとか、首都圏でラーメン屋や食堂で頑張ってきた人たちへ「この店を継いでみませんか」と、客もついている、技術もある、厨房機器もそろっている店をピックアップして、マッチングするとかで、(商工会の会員数減少を)なだらかなカーブにできるのではないかなと思いました。まち全体として、継承できる人がたくさん入ってきてくれないとまちが元気にならないし、我々も企業をやっていますが若い社員がいなくなると立ち行かなくなるので、具体的な策をどんどん進めていただきたいし、私も協力したいと思います。

(熊倉委員長)

色々な意見がありましたが、市の内部で判断した評価で問題ないと思います。その中で、国が5年前に提示した内容に合わせるのではなく、実際の人の動きから、この地域に意識を向けてく

れた人に対して、地域がどのように受け入れていくのかを自分たちで考え、自分たちなりの新しい計画や考え方を試行錯誤して進めていただきたい、ということを会議の意見としてよろしいでしょうか。

(異議なし)

(熊倉委員長)

それでは資料 8-1 は以上で終わりにします。

資料 8-2:雪の聖地「南魚沼」へこらっしゃい！南魚沼ブランドで進める産業振興プロジェクト

資料 8-3:中越文化・観光産業支援機構による歴史資源・行政視察を活用した広域観光

(商工観光課長)

事業の実績と内部で行った評価結果について説明

(熊倉委員長)

資料 8-3 の中越文化・観光産業支援機構による歴史資源・行政視察を活用した広域観光については広域連携事業であり、この場では南魚沼市としてどうだったかの検証に過ぎないので、評価については、担当課説明のとおりとしたいと思います。

資料 8-2 について、異常少雪の問題と新型コロナウイルスの問題の 2 つで、ダメージを受けているので当然数値は低くなると思います。その中でも、一番、直面して苦しんでらっしゃると同時に、これからどのような仕組みが必要なのか、矢口委員から意見があればお願いします。

(矢口委員)

ここ最近の南魚沼市観光協会と商工観光課の活動をみていて、私は新型コロナウイルスがなければ、数値的にも良い結果が表れたのではないかと思いました。このまま頑張っていたら、来年は良い評価となるのではないかと思います。

(熊倉委員長)

今回は特別な事態でしたが、これを伸ばせばもっと伸びるのではないかと、といったようなことがあれば強調していただけますか。

(矢口委員)

(資料 8-2 の P1) E-3 に記載されている「るるぶキッチン赤坂」は、今までにない宣伝の仕方でした。また、商工観光課と観光協会のバランスが良くなってきたところが見られたので、その点を評価したいと思います。

(熊倉委員長)

昨年度の数値上の実績はともかく、取組や方向としては内容的に前進できた。組織と組織の連携や取組内容という点は評価できるということを我々の意見として強調しましょう。数値で見た場合、日本中どこだっていいはずはないですから。羽吹委員はいかがでしょう。

(羽吹委員)

食ということで「本気井」がかなり浸透しており、今年の夏には、五日町スキー場にキャンプ

に来て本気丼を食べるといってお客さんが何人かおられました。県外にも浸透しており、すごくよかったですのではないかと思います。また、他のイベントについても、(県外へ) 広まっていると思います。

今回は、少雪と新型コロナウイルスの影響で結果が数字に出ていません。ですが、この地域にとって食を前面に出すことはすごく良いことで、自信を持ってどんどん進めた方がいいのではないかと思います。

(熊倉委員長)

国への報告はともかく、内部としては高く評価しましょう。

大谷委員はいかがでしょう。

(大谷委員)

私も同意見です。北越急行は隣の十日町市までの交通を担っていますが、十日町市でも本気丼への関心が高く、実際に話を聞いています。また、委員の皆様からの話を聞いて改めて評価が高いことを感じています。私は、国のお金を利用して、本気丼を応援していないことが気になります。せっかくヒット作が出ているにもかかわらず、分散して交付金を使われているので。もっと本気丼というエースを全国的に有名にしようとするのに対して、有効的に交付金を使って、それから周辺に磨き上げていく方がいいと思います。正直、もったいないと思うところがあります。十日町市でも、本気丼のパンフレットが欲しいという話を受けるのですが、部数が限られているため行かない人が結構いるという話もあります。その辺を、喜多方ラーメンではありませんが、本気丼を大きな食イベントとするために、もう一押ししていただきたいというのが正直なところだと思います。

(熊倉委員長)

マクレラン委員はいかがでしょう。

(マクレラン委員)

同意見です。本気丼を含めて、南魚沼市は日本国内でも、すごく食材が豊富な土地だと思います。コロナ云々ではなくて、食べることは人間の基本です。インバウンドを当てにしなくても、日本国内には1億 2000 万人がいるわけですから、日本国内の人たちに南魚沼市へ来ていただきたいと個人的に思います。ですので、羽吹委員や矢口委員が言われたように力強く歩いていただければ、食を前面に出して行ければと思います。

失礼な言い方をしますが、私は海外生活が長かったのですが、インバウンドとあまり言わなくていいのではないかと思います。余計にお金もかかるし、トラブルも多い。ですので、インバウンドは国の政策として掲げてはいますが、わたしたち南魚沼市は日本人を大事にしましょう。

(熊倉委員長)

国への報告と、本音の市民向けの報告とが、合法的に2通りあってよいと思います。樋口委員、食を含めて学生はいかがでしょう。

(樋口委員)

この事業は、観光客という視点だと思いますが、南魚沼市がグルメマラソン、グルメライド、本気丼など色々なところで盛り上がれば市外の学生に注目していただいて、本学院への志願者も増えるとありがたいなと思います。そういう意味では、観光客を取り込むのと一緒にだと思います。

また、たくさん食べて、走って、自転車に乗ってということ、私含め趣味にしている人がいます。なので、南魚沼市に在住・在勤の方が楽しくて、市外の人も楽しいというイベントがたくさんあるといいと思います。事業費については、前年度と比べて総額1千万円くらい増えている中で、市はやる気満々で頑張っていたところに異常少雪と新型コロナウイルスの影響で仕方ないところではありますが、残念だったなと思います。

(熊倉委員長)

樋口委員の学校では、管理栄養士の育成はなされているのでしょうか。

(樋口委員)

しています。

(熊倉委員長)

その方々に、実習をかねて、南魚沼市の食は最高だとレポートをどんどん書かせるのもよいのではないかと思います。

関副委員長はいかがでしょうか。

(関副委員長)

ここはKPIを見ていると仕方ないところだと思います。ただ、全体的に言うと、バブルが崩壊して観光客が減少して下げ止まったところから、すべてのコンテンツが絡まりながら徐々に良くなって上がってきていたと思います。資料に記載されているスポーツイベントや本気井も、一つひとつを見れば少しずつ良くなってきています。私が建設業をやっていて実感するのは、例えば、エアコンが壊れたときに、10年前は20年経過したエアコンが壊れても「お金がないのでなんとか動かしてほしい」といった相談がほとんどでした。しかし、最近は「新しいものに換えてほしい」といったことや増築や改築の相談が多いと感じます。今は新型コロナウイルスの影響で全部止まってしまいましたが、耐えしのぐ時期かもしれません。一つひとつのものに力を入れながら、これからも新型コロナウイルスが落ち着いてからの先、明るい未来をみて進んでいただきたいと思います。

先ほど、1点すごくいい意見だと思ったことがあります。本気井はとても人気があります。この事業では分散してそれぞれのことをやらなければいけないですが、限りある予算の中で、一つ目玉を決めて力を集約する必要があると思います。特にこの小さい地域だからこそ、尖っていくことがすごく大事だと思います。

(熊倉委員長)

藤田委員、金融機関から見ていかがでしょうか。

(藤田委員)

このKPIの数値から申し上げれば、全部ダメですよね。我々の経営改善計画などでも、売上利益が8割くらい達成できていれば及第点というのがありますが、そういう基準で見ても数値だけみれば、ダメです。

ただ、数字の見せ方という点に関して、我々の業界では「泣きの一回」といいますが、例えば、行政で許されるやり方かは分かりませんが、前年の数字や前3年間の平均値で計算をし、例年と同様の状況であれば達成できた、というように説明する方法があります。このような見せ方をしただけであれば、私たち委員も、せっかく皆さんが一生懸命やった事業に対して、より評価をし

やすくなったのではないかと思います。

令和元年度で考えると WHO からの新型コロナウイルスについてのパンデミック宣言が令和 2 年 3 月なので影響はそんなにないのではないかと思います。そのため、影響が大きかったのは異常少雪だったと思います。異常少雪の影響が 11 月頃からとすれば、10 月までは単月の実際の推移として 11 月以降は「例年の降雪があれば」という仮定の数値を置き推移させます。それと、実際の推移を見せることで、50 年や 100 年に 1 度の想定外の異常少雪があったため、目標を下回る数値になったが、例年通りであれば達成できたというように説明していただければと思います。

他の委員の方々からの話を聞いていると、決してこの事業は有効でなかったとは思いません。自信をもって皆さんには取り組んでいただきたいと思いますので、数字の見せ方の工夫も大事なのではないかと思います。

脱線しますが、いろいろところで本気井をいただいています。自由度が各店舗でありすぎるように感じています。せっかく南魚沼市の本気井なわけですから、南魚沼市のお米を必ず使わなければいけないとか、そういう制約がなければ何か変な気がします。なんとなく、ボリュームが多い井というような印象になってしまっていて、私自身、魅力を感じてないというのが正直なところです。

(産業振興部長) ※会議終了後に藤田委員に回答した内容

本気井は、南魚沼産米の消費拡大、PR を目的として始めたキャンペーンであるため、市内の各店舗で提供される井は南魚沼産コシヒカリが使われています。昨年対象エリアを魚沼市、湯沢町に拡大しましたが、市外店舗においても、南魚沼産コシヒカリ使用の誓約書及び納品伝票等の提出を求めて産地を確認しています。

(熊倉委員長)

藤田委員に、非常にいいことを言ってもらいました。

異常少雪と新型コロナウイルスという 100 年や 1000 年に 1 度という事態にもかかわらず、このような数値を出すことができた。それと同時に、市民の皆さんの団結やまちを売り出すことへの繋がりが深まり、共鳴した人々も増えたということで、事業としては非常に評価できるということを、この会議の意見とさせていただきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

(異議なし)

議題(2) 第2次南魚沼市総合計画後期基本計画(案)について

(企画政策課長)

資料 1、資料 2 及び資料 6 に基づき、5 月 22 日書面開催の第 1 回総合計画審議会及び第 1 回まち・ひと・しごと創生推進会議の意見に対する回答並びに後期基本計画(案)への反映結果並びに今後の後期基本計画策定のスケジュールについて説明

(企画政策課 主事)

資料 3、資料 4 及び資料 5 に基づき、総合計画後期基本計画の指標及び総合戦略(戦略プロジェクト)

のKPIについて、設定に当たった考え方及び主な変更点について説明

(熊倉委員長)

説明を聞きましたが、わかりにくかったと思います。私自身もよくわからないところが多々ありましたので、ポイントとして私が再整理します。

1点目が、後期基本計画(案)への意見照会の結果、with コロナと after コロナへの対応をしっかり書き込んだ方がいいとの意見があつてそれを反映したこと。2点目が、総合計画と総合戦略を一体化させる中で、指標と KPI も一体化させてわかりやすくしたということ。3点目が、指標と KPI を一体化させる中で、結果としていくつかの指標や KPI がなくなりましたということだと思います。

ですが、指標や KPI がなくなる前に、そもそも総合戦略の施策などの構成が変更になったという重要な部分の説明が抜けていました。そのため、細かい指標や KPI の話をされて委員は混乱したと思います。例えば、CCRC については当初の内容から関係人口の増大などへと大きく変更されています。(さらに、CCRC 構想に基づく産業振興については、自然環境や地域特性を活用した産業振興という内容に基本方針が変更されている。)また、移住定住についても、冬期のスキー目的の方だけではなく、関係人口について測定するためにより適した KPI に変更されたこと。商工会についても、KPI を商工会会員数ではなく、商工会組織率に変更し現状維持を明確にわかるようにしたこと。いくつかのポイントがあると思うのですが、それによろしいでしょうか。

(企画政策課長)

おっしゃるとおりです。

コロナ禍の話については説明しませんでした。5年後の状況が読めないのも、後期基本計画(案)には具体的な言葉を使わない方がいいとの意見もあり、ある程度ぼやかした表現にしています。

(熊倉委員長)

後期基本計画を策定するにあたって、大きく項目そのものをなくした、あるいは加えたものがあるならば、指標の説明ではなく、ポイントを説明していただけますか。私が見て気になったのは、CCRC です。市長の政治上の判断もあったとは思いますが、そこが大きく変わっていること、また移住定住の分野でも、今まで記載されていた話から関係人口の拡大という内容に変えられている。そのようなポイントを説明いただけますか。

(企画政策課長)

資料4の新旧対照表で言えば、「基本プロジェクト」と「施策」の列で、赤くなっているところが第1期と変わったところです。また、CCRC につきましても、5年前の時点では、アクティブシニアを積極的に呼び込むことを考えていますが、ターゲットとする層の幅が若い人たちやアウトドアを好む人たちに広がりを見せたことから、大きく変わっています。

(熊倉委員長)

今の説明を聞いてから、資料4の総合戦略の KPI を改めて見ていただくと、わかりやすいと思います。資料4の P.2 では「I-4 メディカルタウン構想、CCRC 構想に基づく産業振興」の項目が消えて、P.3 の「I-3 自然環境や地域特性を活用した産業振興」に組み込まれています。

P.4、5 では、第1期の「II-4 生涯学習・文化活動の充実による「学びの循環社会」の創造」

と「Ⅱ－５暮らしを支える社会基盤整備」が消えて、P.9 プロジェクトⅣに組み込まれています。さらに、第２期（案）で「Ⅱ－２交流人口・関係人口の創出・拡大」、「Ⅱ－３地域資源を活用した質の高い観光交流の推進」の中身が膨らまされて、スポーツクラブやふるさと納税などがきちんと入るようになりました。

P.6、7でも、第１期の「Ⅲ－５生涯にわたる健康・医療・福祉の充実」の項目が、P.9の「Ⅳ 全員活躍のまちプロジェクト」に組み込まれ、大きく組み立てが変わってきています。

このように大きく組み立てが変わってきているのは、後期総合計画という大きな計画の中に総合戦略のプロジェクトを組み直したことにより、項目の廃止や位置の変更があった。そのことについてご理解をいただいた上で、指標は大きな変更がなければ、より数値が取りやすい、あるいは市民に理解しやすく変更したと考えますが、それでよろしいでしょうか。

（企画政策課長）

ありがとうございます。事務局として異存はありません。

（熊倉委員長）

市長も、それでもよろしいでしょうか。

（市長）

はい。

（熊倉委員長）

そのような中で、総合計画と総合戦略が一体となってわかりやすくなっただろうか、やめた方がいい指標、加えた方がいい指標はないかなどについて、ご意見をいただきたいと思います。

藤田委員、いかがでしょうか。

（藤田委員）

資料１のP.100、101の「5-4 商工業の振興」について、議題（１）でも話題になりましたが、減少傾向にある商工会の会員数を維持することを目標として設定しているのはおかしいとの意見について、そのとおりでと思いました。そのため、KPIを「商工会会員数」から「商工会組織率」に変更したことは妥当性があると思いました。

目標の中で、「雪室製品を返礼品としたふるさと納税寄付額」が新たに設定されています。令和6年度の目標値について根拠も記載されているのは良いのですが、目標を達成するための具体的な施策はどこに記載されているのでしょうか。

（熊倉委員長）

資料１のP.100、101の中で、「雪室製品を返礼品としたふるさと納税寄付額」が目標に設定され、令和6年度目標値が430,000千円となっていますが、施策の基本方針や施策の概要にそのことが十分に書き込まれていないのではないかと、このことですが説明をお願いします。

（U&Iときめき課長）

質問はごもっともだと思います。新しく追加された目標にでしたが、施策の基本方針や施策の概要に記載はございません。具体的な記載はありませんが、基本施策の中に含まれているとの認識でした。

（企画政策課 主事）

「雪室製品を返礼品としたふるさと納税寄付額」は、戦略プロジェクトの具体的な施策のK P

Iとして新たに設定され、資料1のP.100の「5-4 商工業の振興」の指標として組み込まれたものです。その戦略プロジェクトの具体的な施策は、資料1のP.28にある【I-3 自然環境や地域特性を活用した産業の振興】の[③雪資源や自然環境を活用した産業を育てる]という施策になります。さらに具体的な事業を確認する場合は、「対応する総合計画の施策」の該当するページを見ていただく必要があります。そこに、資料1のP.100の「5-4 商工業の振興」があって、その施策の体系にある「地域ブランドの創出支援事業」が、目標を達成するために実際に取り組む具体的な事業になります。

(熊倉委員長)

今の意見は、それではダメだという意見なわけですので、地域の皆さんと市の職員が知恵を出し合うには、市民がわかる文章を書いていかなければいけないので、これについて、記載をお願いします。

(市長)

熊倉委員長からの指摘のとおりだと思います。私は3年間にわたって雪資源活用に取り組んできましたので、お話はよくわかりました。例えば、P.100の現状と課題の中に、取り組んできた方向性をきちん記載し、商工業などの地域産業として明確に位置づけないと、市民の皆様に伝わりにくいと思います。この点について、担当と書き加え等を含めて、もっと分かりやすくしたいと思います。

(熊倉委員長)

市民の代表の方から出た意見ですので、市長も今言ってくくださったように、市民がわかる、他の課の皆さんもわかるようにして、みんなで力を合わせることができるような記載にしなければもったいないと思います。

羽吹委員、いかがでしょうか。

(羽吹委員)

全体的には、会議の前に見ましたが、相応の目標設定をしていると思います。私としては問題ないと思います。

(熊倉委員長)

ありがとうございました。

関副委員長から見て、いかがですか。

(関副委員長)

細かいところを言っても全然時間が足りないのですが、全体的にはずっと携わらせていただいております、内容としていいと思います。それぞれの施策を総合計画に沿って進めていけば、地域は少しずつ良くなると思います。各施策に実際に行う事業があって、「この事業で何をしていくのか」という記載もあります。一番大事なのは、地域のブランド創出支援事業などの各事業の先に、具体的に何をやるのか、どんな光ったものや、尖ったものをやるのかということだと思います。是非、期待したいと思います。

(熊倉委員長)

マクレラン委員、いかがでしょうか。

(マクレラン委員)

膨大な資料と情報と数字でできていますが、大変申し訳ない言い方をすると、シニア世代と言われている方たちには、総合計画を理解できないと思います。ですが、かいつまんで話されたことはよかったと思います。また、これからを担う方たちが総合計画を作ってくれたことは素晴らしいことだと思います。

議題（１）でコメントさせていただきましたが、総合計画について、細かい数字は藤田委員が専門家ですし、事業を行われているであろう委員の方たちがビジネス面でご覧になっていると思います。私は、国が進めているプロジェクトからは離れた意見を、一市民としての感覚から申し上げさせていただきます。

（熊倉委員長）

市民が持っている実感というのはとても重要です。自治体が、県や国からお金をいただいて事業をするには相手側の書式に合わせなければならないということがあります。ですが、それはそれとして、市民と市全体の発展なり、持続的な発展のためにどう活用していくのか、という知恵の出し方が重要だと思っています。

私も専門家なので計画は見ますが、途中で見たくなくなってしまうのも実態です。市の広報に掲載するのがいいか、別冊とするのがいいかはわかりませんが、みんなで協力して頑張るためにわかりやすい概要版を作ってください。それによって、税収が厳しく人口減もある中で、国や県から上手にお金をいただいて施策をしていること伝えることで、市民と一丸で進むのが良いと思います。例えば、本気井や雪室の話を表に出して、市民と皆さんの気持ちが繋がれば、事業項目を見ても内容はよくわからないけれど事業をするために市が、県や国からの補助金や委託金、民間事業者からの寄付金を得て頑張っていることは伝わるし、南魚沼市で教育を受けた子どもたちや東京の子どもたちから南魚沼市に関心をもってもらうことに繋がると思います。

大谷委員はいかがでしょう。

（大谷委員）

交通関係ということで、地域公共交通協議会にも参加させていただいています。資料４のP.4の第１期の「Ⅱ－５の暮らしを支える社会基盤整備」にある「市民バスについて」の項目（■公共交通の利便性を高める）が統合されたことのお考え方を教えてください。

（企画政策課企画主幹）

第１期ではプロジェクトⅡ「Ⅱ－５暮らしを支える社会基盤」に、移住定住を促進するという側面から地域の基盤整備を行う施策もここに記載していたのですが、今回は全体の組み立てを変更し、プロジェクトⅣは「全員活躍のまち」としています。（活躍の前提となる安心した暮らしを支える）ハード面での基盤整備についても、プロジェクトⅣに移してまとめた方がわかりやすいとの考えからこのように整理しました。

（熊倉委員長）

なくなったわけではなく、プロジェクトⅡからプロジェクトⅣに変えたということですね。

（大谷委員）

市民代表の一人という立場から言わせていただくと、総合計画の記載箇所を確認するといった行政文書の校正をするような作業のために来ているわけではありません。細かいところではなく、総合計画や総合戦略の内容を変えた理由を説明していただきたいです。また、国の指示によるも

のは、割り切ってやれば良いと思います。また、資料をめくって確認しても内容が頭に入っていないので、プロジェクターやパワーポイントを使用して、概要版を作ってほしいと思います。市民の代表という意味では、この会議の委員は裁判員裁判の裁判員のようなものだと思っています。裁判では弁護士と検察が法律用語で行っているやり取りはわからないかもしれませんが、詳細はわからなくても大枠の内容を説明していただければ判断はできるようになるのではないかと思います。説明について、次回以降、工夫していただけると大変ありがたいです。また、そのことで、市民と市役所の距離も近くなるようにも思います。

(熊倉委員長)

委員の皆さんにわかるように整理していくと、市民の皆さんが分かりやすいかどうかがあるので、とてもいい機会だと思います。

(マクレラン委員)

最初に、国へ報告するための資料・文書であるので詳細に記載したものになったとおっしゃってください。資料について、大事なところを箇条書きにしてあるなどしてあれば、とてもわかりやすいと思います。提示された資料は内容が詳しくすぎて分かりづらいので、担当者には頑張ってくださいたいです。また、国に提出する用の文書と、市民が読んだら分かるような文書を2本立てて提示していただけるととてもありがたいです。

(企画政策課長)

おっしゃるとおりです。

私たち公務員はすべてを説明し、掲載しなければいけないのではないかと考える傾向があります。できるだけ分かりやすくというのは永遠の課題ですが、総合計画は特定の分野だけではなく、市のすべて事業がどこかに入らなければいけないものであると考えています。そのため、非常にボリュームがあることはご容赦いただきたく思います。

地方自治法が変わり、総合計画という名前ではない、やわらかい名前でやわらかい文章で記載された計画も出てきています。南魚沼市の総合計画についてはともかくですが、委員の皆さんからの意見を踏まえ、わかりやすい説明を心がけたいと思います。

(熊倉委員長)

市民の実感がこの会議で話されているので、それを踏まえて修正されることで、市民から理解され、市の職員も働き甲斐に繋がると思います。国とは違い、市民と市役所は同じ土俵に立っているので、意見交換できる言葉で作られた計画で進めましょうということです。

樋口委員は、いかがでしょうか。

(樋口委員)

全体的に資料については非常に丁寧にできているなという感想を持ちました。文面とかを見ると、やわらかくて優しい文面なので、いいコピーライターがいるのだろうと想像しています。

教育の立場から、気になったことがあります。資料1のP.56の「2-1 学校教育の充実」をみて、人口減少を食い止めるためには、教育の充実はすごく必要なことで、南魚沼市で子供を育てたいという思いはとても大事になりますので重点的に見させていただきました。その中で、現状と課題の文章中には「全国と比較して不登校発生率が高く」とあり、非常にショックを受けています。是非、対策の充実をお願いしたいところなのですが、施策の達成目標をみると「不登校発生率」

という指標は、P.56の「2-1 学校教育の充実」ではなく、P.68の「2-6 子ども・若者やその家族への支援の充実」の方に設定されています。私の意見としては、計画の構成もあるので変更するのは難しいのかもしれませんが、「2-6 子ども・若者やその家族への支援の充実」の施策にあるように、子どもの不登校の発生と年齢が上がったニートと呼ばれる方々を一緒に対応と考えるのがあるのか疑問です。P.56の「2-1 学校教育の充実」の現状と課題において、不登校発生率が高いことを述べているのであれば、施策の達成目標の「不登校発生率」は、「2-1 学校教育の充実」にあるべきだったのかなと思いました。

次にP.68の「2-6 子ども・若者やその家族への支援の充実」の施策の基本方針の上から2つ目に「関係機関と連携し、」との記載があります。不登校発生率を低くする要素として、学校の先生や教育の質の向上や家庭環境の問題などがあると思います。スクールカウンセラーや臨床心理士、公認心理師がそれぞれどのような役割を担うのでしょうか。おそらく「関連機関と連携し、」の中に含まれていると思いますが、抽出が必要になるのではないかと思います。

(教育部長)

ご指摘のとおり、「2-6 子ども・若者やその家族への支援の充実」で施策の達成目標を「不登校発生率」とするのであれば、不登校になった子どもが現場に帰っていくというのが目標になるように思いました。そこについては検討させていただきたいと思います。

不登校発生率については、コロナ禍の影響を大変心配しているところです。先生からは「子どもたちも我慢しているから、おとなしい」と聞いています。これから、コロナ禍が一区切りついたときに、子どもたちがどうなるのか考える必要があります。例えば、夏休み明けなどには注視していかなければならないと考えています。不登校発生率は、一定の数値で高止まりがあります。昨年度は少し減ったという状況でしたので、これからの状況を見ていかなければならないと思っています。

さきほど話がありましたスクールカウンセラーばかりではなく、例えばインクルーシブ教育(多様性の尊重を強化し、障がいのある児童とない児童が共に学ぶ仕組み)の推進や子ども・若者育成支援センターやスクールソーシャルワーカーなど、多様な機関が連携して不登校やいじめに対応しています。いじめは様々なケースがあります。そして、いじめの根本をたどっていくと、家庭教育などいろいろなところに突き当たります。そこで、今ほど申し上げた様々な方々が連携することで、子どもが立ち直っていく、大人がまた現場に帰っていく、居場所を見つけるということに繋がっていくと思います。

(熊倉委員長)

ありがとうございました。樋口委員のご意見のように、個々の施策と施策の達成目標があっているかどうかなど、委員の皆さんにもう一度確認いただき、意見があるようであれば出していただき、市の担当部局で受け止めていただくこととしたいと思います。不登校の問題については、社会に再デビューすることに関しては、福祉保健部の仕事にも繋がっていく部分もあると思います。トータルで、市民と市の各部局が連携することが重要になると思うので、意見交換をしていくことが大切だと思います。いい質問と回答をいただきましたので、内部で練っていただければと思います。

皆さまのご協力で、このような大変な課題について議論いただき予定時間に終えることができ

ました。市長も最後まで残っていただきましたので、なにか一言ありましたらお願いします。

(市長)

本日は誠にありがとうございます。市では資料に記載されたすべての事業を行っています。この総合計画の中には市民生活そのものが体系的にすべて入っています。この指標やKPIだけではない、より細分化されたものもあります。例えば自殺率では、ただ全体だけでなく、お年寄り、若者、男女など分析もしています。体系的にまとめると幅広くなってしまうことはご容赦ください。

先ほどのご指摘のとおり、自分でも総合計画が難しく思うことがあります。例えば雪のことなど新しい取組について追加をする場合は、「こういう視点で取り組んでいる」「このために市として事業を行っている」などを記載する必要があると思います。また説明する際には、これまでの取組を踏まえながら、ダイジェストを申し上げて、そのあとに細部に入っていきような順序でないと理解が難しいだろうなと思いました。今回は、そのようなご指摘をいただき大変ありがたく思いました。

この後、パブリックコメントを実施しますが、市民へのダイジェストでの説明などにも気を付けながら進めさせていただければと思います。

(熊倉委員長)

以上で議事は終了としますので、事務局にお戻しします。

事務連絡

(企画政策課長)

3点連絡します。

1点目、議事録について、委員の皆さんから発言内容を確認いただいたうえで市のウェブサイトで公表します。

2点目、後期総合計画（案）について、昨日の総合計画審議会と本日の会議での意見を踏まえて調製し、9月中旬にパブリックコメントを実施する予定です。実施前に、パブリックコメントに出す計画案を皆様に郵送にて報告します。

3点目、パブリックコメント後に後期基本計画（案）を最終案として調製します。総合戦略は後期総合計画に組み込まれましたので、総合計画審議会で最終の答申をいただき策定とすることとなりますのでご了承ください。策定しましたら改めて委員の皆様に情報共有をさせていただきます。

4. 閉会（関副委員長）

皆さま、お疲れさまでした。また、お忙しい中、お集まりいただきまして感謝申し上げます。計画について言わせていただきますと、最初は国からの指示により策定したものではありませんでしたが、いい計画になったと思います。市民が、何が知りたくて、この地域の何に魅力を感じるかを、この計画を市のウェブサイトに乗せたところで、市民の95%は見ないと思います。市民が何を見たいかというところ、構想と基本計画と実施計画の先、事業の先に具体的に何をやるんだというところ、魅力的になるかどうかです。その部分をPRしていただければ市民に届くのではないかと思います。

います。先週、国会の方で頑張っているある代議士さんと話す機会がありました。「今は、新型コロナウイルスにより危機ではあるけれども、非常にチャンスでもある。東京一極集中の是正、地方創生を推し進めるのは国民の感覚が変わるここがチャンスだ。」とおっしゃっていました。今、大変な時期ではありますが、この総合計画を基に地方は地方創生を進めて魅力あるまちづくりをする、国は省庁の移動や教育機関の大きな移動などをやっていただいで、両輪で押し進めていく。新型コロナウイルスはピンチでありチャンスであると思いますので、そこに向けて、我々市民もやっていければいいなと思います。

以上で、第9回の南魚沼市まち・ひと・しごと創生推進会議を閉会します。

午後5時00分終了